

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・校内授業研(国語)で言語活動を通して伝え合う力の育成を目指す。 ・算数は、習熟度別や少人数指導を行う。 ・自ら学習課題を設定し、学校司書とも連携しながら問題解決を図るような学習を展開する。 ・ニレの木タイムで基礎基本の定着・充実を図る。	・言語活動を工夫し、グループ学習の交流などで、学び合い、伝え合う力が身につけてきている。算数の習熟度別や少人数指導により、より個に応じた指導ができ、ニレの木タイムと合わせて、基礎基本の定着を図ることができている。学校司書との連携がより効果的に行えるように、児童の学習が深まっている。	B
豊かな心	・音楽朝会を通して、情操教育を充実させる。 ・あいさつ運動、縦割り活動を通して人との関わり方を学び、挨拶やあたたかい言葉遣いなど心の教育を行う。 ・道徳では、各学級で年1回の授業公開を行う。	・音楽朝会のように、日常の中に全員で歌う活動があることは情操教育に役立っている。挨拶については、校長が朝会を「すあげ運動」の取り組みなどにより、児童の意識が高まっている。言葉遣いについては引き続き指導が必要である。土曜参観に行った道徳の授業は、保護者に好評だった。	B
健やかな体	・「縄跳び集会」では、クラスで記録を伸ばす取組をする。 ・「ジョギング週間」ではカードを作成し、取り組む。 ・通年で「姿勢体操」に全校で取り組む。	・縄跳び集会は、児童の関心が高く、自主的に取り組んでいる。ジョギング週間では、自分の体力に合わせた目標を立て、達成に向けて頑張る児童の姿が見られた。姿勢体操を朝会の前に年間を通して行うことで、定着してきた。学校保健委員会が集会で姿勢の大切さを発表し、姿勢を意識する児童が増えた。	B
児童指導	・「釜南スタンダード」を全職員が共通理解し、児童指導の徹底と保護者へ発信を行う。 ・職員会議等で情報交換等を行うとともに児童支援専任のもと組織的に適切な対応を行う。 ・事案に対しては複数の職員で対応できるようにする。	・「釜南スタンダード」を共通理解し、担任や専任を中心に複数で児童の指導にあたる事ができた。全職員での情報交換は組織的な対応につながっている。校内で起きた出来事や速やかな共有や児童指導の細かい点での共通理解、保護者への発信は今後さらに取組を進めていく必要がある。	B
特別支援教育	・配慮が必要な児童の個別の指導計画・教育支援計画を作成し、職員で共通の理解・対応をするとともに、関係機関とも連携を図りながら、個々の児童に応じた指導・支援を行う。 ・校内支援体制の構築を図る。	・配慮が必要な児童の取り出し指導やT・Tでの授業など、個々の児童への支援体制はできている。個々の児童に応じた支援をより充実させるために個別指導計画・支援計画を共有化し、活用していきたい。	B
地域連携・学校運営協議会	・学校運営協議会を開き学校評価等、保護者・地域・学校が一体となる学校運営体制を整える。 ・学校説明会や学校便り、HP等を教育活動理解の手立てとする。 ・校内レンジャー、見守り隊、琴・米作り等の地域ボランティアの取組を充実・継続していく。	・学校運営協議会に全職員が参加する場があり、地域の方々とも意見交流ができていた。学校HPの更新が増え、よい情報発信になっている。地域ボランティア、スペシャルティーチャーなどの取組は充実しているが、世代交代があるので、地域などとの連携し、新たな人材探しを行っていく必要がある。	A
安全管理	・地震・火災・不審者侵入等、避難訓練や引き取り訓練を計画的に行う。 ・食物アレルギー児に対応する。 ・施設設備や教室、通学路等の安全点検を行う。	・避難訓練は計画通りに実施され、様々な避難の仕方について児童の理解も深まっている。職員研修を行い、食物アレルギー児に対応できる。毎月安全点検を確実にしている。通学路の安全点検も行ったが、児童の歩き方については今後も指導を継続していく。	A
人材育成・組織運営	・メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を毎月実施する。 ・不祥事防止、コンプライアンス、児童指導、危機管理対応能力等の校内研修を計画的に実施する。	・メンター研修は実技研修を取り入れ、評価方法やより具体的な指導について学ぶことができた。 ・不祥事防止などの校内研修は、計画的に行い、意識を高めることができた。	B

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・校内授業研(国語)で言語活動を通して伝え合う力の育成を目指す。 ・算数は、習熟度別や少人数指導を行う。 ・自ら学習課題を設定し、学校司書とも連携しながら問題解決を図るような学習を展開する。 ・ニレの木タイムで基礎基本の定着・充実を図る。	・国語を中心に授業研究に取り組み、めあてを明確にした言語活動や友達との交流の活動を工夫することで、伝え合う力がさらに伸びた。算数では、ニレの木タイムの活用や少人数やT・Tでの授業をすることで学習の成果が出ている。学校司書との連携は、昨年度よりも多様化し、読書活動や選書も充実した。	B
豊かな心	・音楽朝会を通して、情操教育を充実させる。 ・あいさつ運動、縦割り活動を通して人との関わり方を学び、挨拶やあたたかい言葉遣いなど心の教育を行う。 ・道徳では、各学級で年1回の授業公開を行う。	・音楽朝会では、他学年の発表を聴くことや全校で声を合わせて歌うことを楽しんでいる。挨拶については、児童会を中心として「すあげだ」の4つめあてで工夫した取組を行っているため、意識が高まり、進んで挨拶できる児童が増えている。「誰にでも」が課題。縦割り活動では、異学年集団で仲よく交流している。	B
健やかな体	・「縄跳び集会」では、クラスで記録を伸ばす取組をする。 ・「ジョギング週間」ではカードを作成し、取り組む。 ・通年で「姿勢体操」に全校で取り組む。 ・休み時間を利用した体力作り(ドッジボール大会・体育館バスポート等)を行う。	・縄跳び集会は、児童の関心が高く、自主的に取り組んでいる。ジョギング週間では、自分の体力に合わせた目標を立て、達成に向けて頑張る児童の姿が見られた。姿勢体操を年間を通して行うことで、柔軟性が高まったという成果も出てきている。休み時間を利用した体力作りは、自ら体力向上に努める意識に繋がっている。	B
児童指導	・「釜南スタンダード」を全職員が共通理解し、児童指導の徹底と保護者へ発信を行う。 ・職員会議等で情報交換等を行うとともに児童支援専任のもと組織的に適切な対応を行う。 ・事案に対しては複数の職員で対応できるようにする。 ・いじめ防止のため、アンケート(2回/年)、先生と話す月間、YPアセスメントを実施する。	・職員会議での情報交換だけではなく、適時支援のための会議や情報交換を行っている。 ・組織的な支援体制で取り組んでいるので今後も継続していきたい。今後も新しい情報収集や情報共有に力をつけていく。	B
特別支援教育	・配慮が必要な児童の個別の指導計画・教育支援計画を作成し、職員で共通の理解・対応をするとともに、関係機関とも連携を図りながら、個々の児童に応じた指導・支援を行う。 ・校内支援体制(特別支援教育部、学習サポート等)の構築を図る。	・配慮が必要な児童の取り出し指導やT・Tでの授業など、個々の児童への支援体制はできている。関係機関とも連携が図られてきた。児童の数が限られているので、更に工夫して指導に努めたい。会議や研修などの中で、より細かな情報交換をしていくことで共有化が図れるようになってきている。	B
地域連携・学校運営協議会	・学校運営協議会を開き学校評価等、保護者・地域・学校が一体となる学校運営体制を整える。 ・学校説明会や学校便り、HP等を教育活動理解の手立てとする。 ・校内レンジャー、見守り隊、琴・米作り等の地域ボランティアの取組を充実・継続していく。	・学校運営協議会では学校経営計画を詳細に伝える資料をもとに学校の取組について理解していただくことができた。地域の方達の協力体制は積み上げがあり充実してきている。学校便り・学年便りでは子ども達の様子や頑張りを掲載し伝えることができた。	A
安全管理	・地震・火災・不審者侵入等、避難訓練や引き取り訓練を計画的に行う。 ・食物アレルギー児の対応を年度初めに全職員で研修し確認する。 ・施設設備や教室(1回/月)、通学路(適宜)等の安全点検を行う。	・児童の安全管理については職員一同で高い意識をもって取り組むことができていた。1回目の避難訓練をはじめ、不審者訓練やアレルギー研修など全職員で取り組んでいる。 ・長年の懸念事項だった危険箇所のある通学路の変更を町内会長と連名で陳情し、土木事務所、警察から許可が出た。	A
人材育成・組織運営	・メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を毎月実施する。 ・不祥事防止、コンプライアンス、児童指導、危機管理対応能力等の校内研修を計画的に実施する。	・メンターチームがリーダーを中心として自主的に研修の計画を立て進んでいった。メンターチーム同士学び合う姿が見られた。授業研究会は、学級経営、教科指導など、他の教職員も交えての話し合いがあり、力を付けていけるようになった。 ・職員は研修は計画通り実施できた。	B
いじめへの対応	・早期発見のため、アンケート(2回/年)、先生と話す月間、YPアセスメントを実施する。 ・担任一主任一専任一管理職への連絡システム・体制を再確認し組織全体で対応する。 ・目の前の児童を大切にすることを共有し、児童の特性に応じた支援を行うための、人権教育、特別支援教育に関する研修を行う。	・アンケート、YPアセスメントは、子どもの実態をつかむのに有効だった。お話し月間は、子どもの思いを知るよい機会だった。時間・場所等よりよい方法を探って継続していき、いじめへの対応は組織で取り組んできた。早期発見、早期対応のため教職員の意識をさらに高める研修が必要。	B

ブロック内相互評価後の気持ち	・今年度の合同授業研究会は本校で全学級の授業公開を行った。子ども達が落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られたと近隣校の参観した方から評価を得た。積極的に発言し、生き生きと活動している姿もよかったです。6学年が一緒の縦割り活動も本校のよさなので、年間通して続けていきたい。進んで挨拶できるようになることは小学校共通の課題に挙げられているが、正門での朝の挨拶は校長からの声掛けもあり、挨拶する児童が多くなってきた。様々な場面を捉え、今後ともコミュニケーション能力を伸ばすことに取り組んでいきたい。
学校関係者評価	・確かな学力、豊かな心、健やかな体にもっと取り組んでいる。・年間の活動計画と実際の取組内容がうまく連携されている。・挨拶の取組施策には感心した。・挨拶ができるようになってきた。(同意見5人)・教職員の自由な時間を確保した上で各種の運営をお願いしたい。ストレスがたまるようには子どもたちに良い影響を与えない。白山通学路は長年問題を抱えていたが改善できそうで子どもたちの安全がより確保される。・先生方、子どもたちが元気である。音楽朝会、縄跳び集会は子ども達の繋がりができている。日々振り返り活動をしていくことが大切。子どもたちの伸び伸びとした生活している様子が伝わってくる。チーム力の成果とと思う。

ブロック内相互評価後の気持ち	・児童や保護者のアンケートの挨拶の項目から、挨拶が積極的に行われている様子が分かりとてもよい取組であるとの評価を受けた。昨年度までと同様に正門での管理職からの声掛けをはじめ、他の職員や児童のあいさつ運動も継続して取り組んできた成果が表れているとされている。また、保護者アンケートの回収率が高く、教育活動への理解や協力的な姿勢を伺うことができるとのご意見をいただいた。今後も、様々な機会を捉え、子どもたちの様子を保護者や地域に発信し、協力して子ども達の成長を支援していきたい。
学校関係者評価	・組織体としての活動は案に案が風通しが良いのが一番である。児童の関心姿勢が56年前と比べるとはるかによくなっている。組織体としての成果、教職員のチーム力だと思ふ。・来校すると子供達から明るさ素直さ好奇心の強い印象を受けます。・ずっと不可能だと思っていた通学路の変更が叶って本当に良かったです。・自主性があり自助共助の心をもっている。・健やかな体のジョギング週間や縄跳び集会を年間を通して取り組んでいるのは良いと思う。・子供達が作った第二体操を練習してほしい。学校全体の雰囲気も変わっている。先生方の連携の良さだと思ふ。以前はこちらから挨拶しても無反応な児童達も最近は返ってくるようになってきた。自発的に挨拶ができるようになった。先生方はいつも丁寧に対応してくれています。学校運営協議会に参加し、本校の様々な取組がわかり、児童達が期待通り成長している姿を見て、先生方には心から感謝申し上げます。・授業参観では自分の体験を通して大切なことに気づき、次の挑戦に生かそうとする子供がよくなりました。今後小中の教職員が小中一貫教育を意欲して児童生徒を支援し続けることが大切である。・挨拶は学校だけで取り組んでも限度がある。地域とでも協力していきたい。

学校経営中期取組目標振り返り	・「地域連携・学校運営協議会」は本校の特色と位置づけ全教職員で共通理解し、取り組んでいる。自己評価も関係者評価も高かった。次年度以降も引き続き地域・保護者の教育力を学校に取り込むように努めていく。「安全管理」では自己評価も関係者評価も高かった。次年度も通学路の安全、校内の環境整備、安全点検等重点項目に取り上げ全職員で共通理解の上、実践していく。「豊かな心」あいさつ運動では児童の挨拶が昨年度より増えたと関係者や保護者より評価を得た。次年度以降も学校・保護者・地域とともに健全な児童の育成に努めていきたい。
----------------	---

学校経営中期取組目標振り返り	・「地域連携・学校運営協議会」は職員が本校の特色として理解し、意識して取り組めた。スペシャルティーチャー、出前授業等地域とのかわり少ない学年も見られた。次年度の課題としては「安全管理」では町内会長と連名で土木事務所へ陳情書を提出し、直接所長を複数回訪ねるなど積極的に開問し、長年の本校懸念事項であった通学路の変更が可能となった。今後とも全職員で安全な環境づくりに尽力していきたい。「健やかな体」では持久力を高めるよう、ジョギング週間、縄跳び集会を全学年で取り組ませようとしている。いじめへの対応では組織的な対応が浸透してきたが、早期発見、早期対応の意識をさらに高めていく必要がある。お話し月間はよい取組だったので時期等を考慮して次年度も行っていい。「豊かな心」の挨拶運動は定着のために指導を継続していくことが大切である。
----------------	--

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・全ての教科において言語活動を通して伝え合う力の育成を目指す。 ・算数は、習熟度別や少人数指導を行い、基礎基本の定着、思考力・活用力の育成に努める。 ・自ら学習課題を設定し、学校司書とも連携しながら問題解決を図るような学習を展開する。 ・ニレの木タイムでも継続的に計画に基礎基本の定着・充実を図る。	言語活動を通して伝えようとする意欲が高まっているが、言語活動を支える語彙力、読解力に課題がある。習熟度別や少人数指導は効果的に行うことができた。さらに個に応じた指導を工夫できるとよい。学校司書との連携は、定着している。	B
豊かな心	・音楽朝会を通して、情操教育を充実させる。 ・あいさつ運動、縦割り活動を通して人との関わり方を学び、挨拶や温かい言葉遣い等、心の教育を行う。 ・道徳では、各学級で年1回の授業公開を行う。	あいさつ運動や縦割り活動は釜南の良さとして定着している。あいさつの日常化や言葉遣いについての指導は継続が必要。「音楽朝会」は音楽科の学習の場としては有効だった。道徳は年間一回の授業公開を行った。	B
健やかな体	・重点研究「体育」の授業を通し、一人一人のめあての設定や学びあいの場のあり方を工夫する。 ・「縄跳び集会」を通して、クラスで動かし合い、心を一つに記録を伸ばす取組をする。 ・「ジョギング週間」はカードを作成し取り組む。 ・通年で「姿勢体操」に全校で取り組む。 ・休み時間を利用した体力作り(ドッジボール大会・体育館バスポート等)を行う。	姿勢体操第2を作り朝会前に行った。年間を通して行ったことで、動きに慣れた。休み時間を利用して体育館バスポートの回数が増え、運動への意欲が高まった。なわとびやジョギングなどの活動は、後期からの取り組みとなっていった。	B
児童指導	・「釜南スタンダード」を全職員が共通理解し、児童指導の徹底と保護者へ発信を行う。 ・職員会議等で情報交換等を行うとともに児童支援専任のもと組織的に適切な対応を行う。 ・事案に対しては複数の職員で迅速に対応できるようにする。 ・いじめ防止のため、アンケート(2回/年)、先生と話す月間、YPアセスメントを実施する。	児童の必要な情報については、職員会議等で共有してきた。事案に対しては、児童支援専任が中心となり組織として複数の職員で対応することができた。「釜南スタンダード」については年度初めの確認だけだったので、明記されていないことについて指導が徹底されないことがあった。	A
特別支援教育	・特別に配慮が必要な児童の個別の指導計画・教育支援計画を作成し、職員で共通の理解・対応をするとともに、関係機関とも連携を図りながら、個々の児童に応じた指導・支援を行う。 ・校内支援体制(特別支援教育部、学習サポート等)の構築を図る。 ・インクルーシブ教育をめざし、ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境づくりに努める。	配慮が必要な児童の個別の指導計画・教育支援計画は立てられた。校内支援体制(特別支援教育部、学習サポート等)は効果も上げたが、全ての要望には応えきれない。ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境については徹底されていないところがあった。	B
地域連携・学校運営協議会	・学校運営協議会を開き学校評価等、保護者・地域・学校が一体となり、協働して学校運営体制を整える。 ・学校説明会や学校便り、HP等を教育活動理解の手立てとする。 ・校内レンジャー、見守り隊、ウルムスサポート、琴・米作り等の地域ボランティアの取組を充実・継続していく。	学校運営協議会で保護者、地域、教職員が釜南の良さや課題を話し合うことができた。校内レンジャー、見守り隊、ウルムスサポート、地域ボランティアの取り組みにより、豊かな教育活動が行われた。HPやお便りなど、学校からの発信が弱いところがあった。	B
安全管理	・地震・火災・不審者侵入等、避難訓練や引き取り訓練を計画的に行う。 ・食物アレルギー児の対応を年度初めに全職員で研修し確認する。(校外学習のおやつについての指導) ・施設設備や教室(1回/月)、通学路(適宜)等の安全点検を行う。	避難訓練や引き取り訓練、安全点検を計画的に行った。食物アレルギー児の対応や校外学習のおやつへの対応などは徹底することができた。アレルギー対応については年度初めに研修を行い情報を共有した。	A
いじめへの対応	・早期発見のため、アンケート(2回/年)、先生と話す月間、YPアセスメントを実施する。 ・担任一主任一専任一管理職への連絡システム・体制を再確認し組織全体で対応する。 ・目の前の児童を大切にすることを共有し、児童の特性に応じた支援を行うための、人権教育、特別支援教育に関する研修を行う。 ・必要に応じてケース会議で迅速に対応する。	いじめの早期発見のためのアンケートや「先生と話す月間」は有効であった。「先生と話す月間」は時間の確保に難しさがあった。いじめの疑いのあるものはすぐに専任に連絡があり、迅速に組織的に対応することができた。いじめ防止委員会であった事案について職員会議等で全職員が共有し、見守り体制ができた。	B
人材育成・組織運営	・メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を毎月実施する。(主幹教諭の指導助言) ・不祥事防止、コンプライアンス、児童指導、危機管理対応能力の校内研修を計画的に実施する。 ・カリキュラムマネジメントによる授業改善。 ・区・市研究会、校外研修会への参加推進・活用	人材育成のための研修は組織的に進めていた。計画的に実施するよう心がけたが、研修の時間を確保することが難しいこともあった。不祥事防止、コンプライアンス、特別支援、人権、危機管理対応能力等の校内研修を計画的に実施した。	A

ブロック内相互評価後の気持ち	4校とも、「豊かな心」の育成として、「挨拶」の指導を行っている。教職員が率先して挨拶をしたり、児童へ呼びかけたりすることを継続することが大切である。特別支援を希望する児童生徒は増加している。要望に応えるためには教職員の配置が必要であるが、限られた人員の中では限界もある。学校生活のきまり、スタンダードは年度当初の確認だけでなく、定期的に見直し、確認したしながら、全教職員が共通理解し、ぶれない指導をしていくことが重要だということも共有された。ホームページには、必要な情報を掲載する以外に、児童生徒の様子を伝えていくという面もあるが、教職員の業務が多忙化する中、なかなか手が回らないという実態もある。内容や頻度については各校の実態によってできる範囲で工夫していけるとよい。
学校関係者評価	知徳体公開で目指す子ども達の特に「公」にかかわる子どもたちの活動が、どれだけ実践化されたのかの実績が、いかに発信という形で地域の方々に届くことができたかを、学校アンケート等を通して確認した。その結果、学校の自己評価である「発信が未成熟である」という自己反省に対して、学校だよりはほとんど分かりやすい内容でまた、見通しが持てる構成となっているという評価をいただいた。さらに学力や体力向上への取り組みに対しては概ね努力をし、実を結びつつあるという評価をいただいた。さらにいじめについては、今後も子ども一人一人を丁寧に見つめながら取り組んでほしいというご要望もいただいた。

学校経営中期取組目標振り返り	創立30周年という節目に、改めて全教職員が、保護者、地域の教育力と共に、チーム学校として、カリキュラムマネジメントを推進し、子どもたちの成長ファーストで、教育活動に取り組むことができた。教職員の指導力向上のための研修の充実もあり、人材育成も充実した。個に寄り添う児童指導のための徹底した情報共有、いじめに対するアンテナを高くし、迅速な対応と防止に向けての取り組み、学力向上のための授業改善、きめ細かい指導等、共通認識がなされ、少しずつ成果が表れてきている。誰もが安心して過ごせる学校であるための人権教育、安全教育にも力を入れてきた。学校教育目標の見直し、子どもたちの育にたい資質・能力について、学校運営協議会、学校評価という形で、全教職員と保護者と地域の方々との共有ができたことが、次年度へつなげる大事な検討であったと思える。特別支援教育、学習環境の整備は来年度への課題ともいえる。(一丸！チーム釜南小！横浜市優秀チーム賞受賞)
----------------	--